



難波っ子

平成29年度1月号
尼崎市立難波小学校
校長 東 政信

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

平成30年の年明けは、元日から晴天が続き、気温は低めでしたが穏やかでした。皆様は新しい年を迎えてどのような思いを持たれたでしょうか？

「**一年の計は元旦にあり**」という言葉があります。新たな年を迎えて、気持ちを新たに、大きな目標をたてている子どもたちも多いことと思います。学校では、子どもたちに今年一年をどんな年にしたいかという**新たな目標を漢字一字で表してもらおう**と思っています。なぜその漢字を選んだのか、そういう年にするために具体的にはどんなことをするのかもあわせて書いてもらいたいと思っています。

さて、新年にあたって、ある人物の教えについて考えてみたいと思います。江戸時代に近江の国、現在の滋賀県に生まれた中江藤樹という人がいました。この人は人間として大切な道を学び、その道を実行したので近江聖人として讃えられました。その教えの一つとして「**五事を正す**」というのがあります。「**五事**」とは、「**貌・言・視・聴・思**」（ぼう・げん・し・ちょう・し）をさし、

「**貌**」顔かたち・・・真心をこめて、にこやかな顔つきで人に接しましょう

「**言**」言葉づかい・・・気持ちよく受け入れられるような話し方をしましょう

「**視**」まなざし・・・真心をもって、人やものを見るようにしましょう

「**聴**」よく聴く・・・話す人の気持ちになって、相手の話をよく聴きましょう

「**思**」思いやり・・・相手を理解し、思いやりの心をかけましょう

日常においてこの五つの教えが実行できれば、穏やかな人生を送ることができると教えたのです。この「**五事**」は、我々大人が子どもに接する時にも心がける必要があると思います。心のこもった温かい一言や笑顔、子どもを一生懸命理解しようとする努力が子どもの力を伸ばし、心の成長を促すのだと思います。AI（人工知能）の導入など、めまぐるしく変化していく社会の中でこそ、このような、人としてどうあるべきかということが大事になってくると思います。

いよいよ52日間（6年生は50日間）の3学期がスタートしました。短い期間ですが、**1年間のまとめをして確かな力とするとともに、次の学年への準備をする重要な学期**です。そこで、子どもたちには、**1年の目標を立てるだけでなく、修了式（6年生は卒業式）で自分はどんな姿になっていたのかをイメージし、そのための具体的な行動を考えさせ、担任は、修了式（卒業式）までに次の学年（中学校）に向けてどういう子どもたちに育てていくのかを再度考えた上で、スタートを切りたい**と思います。教職員一同「**チーム難波**」として協力し合い、子どもたちのために取り組みますので、昨年同様、保護者の皆様、地域の皆様のご協力ご支援を賜りますようお願いいたします。